



ひらほく新聞

発行所 読売センター平塚北部 (ひらほく) 山本 直 〒254-0013 神奈川県平塚市田村9-4-32 電話 0463-54-2807

「ひらほく」で検索!
★ホームページ ひらほくランド★
http://www.hirahoku.com/
★ブログ ひらほく通信★
http://ameblo.jp/hirahoku/

侍魂 日本人の生き方を取り戻せ

第4の国難！日本子どもたちの未来が危ない！

2013年11月23日、大阪にて『日本人の生き方』を取り戻す『サムライドリプラ』現代に生きる志士たち』というイベントがありました。以前ご紹介した白駒妃登美さん他2名の感動いっばいの基調講演があり、後半の5組のプレゼンでは会場の多くの方がずつと泣き通しだったそうです。参加してきた親友より、昨年末に、そのイベントのDVDをお借りしました。全編一気に観て号泣、居ても立ってもいられない思いに駆られました。謹んでご紹介いたします。

主催の中心は、群馬県にある『奇跡の眼科』と呼ばれている「いとう眼科」の事務長、伊藤勝さん。「忠魂義胆」を座右の銘とし、佛教を中心とした考え方で独自のスタッフ教育をしているという、たいへんに素晴らしい方です。その実行委員長の伊藤さんの思いです。

|||||

家に帰れば、いつでも温かいお風呂に温かい布団。いっどこにいても、手に入るおいしいご飯。車、テレビ、携帯、パソコン、、、欲しいものは何でも手に入る日本。さらに素敵な仲間にも囲まれて、仕事もプライベートも充実。

「私は幸せです・・・」

そういう人、多いのではないのでしょうか。でも、本当にそうでしょうか？一歩踏み出してみてください。自分の枠を超えて、社会という観点で見てみてください。

日本人はかつて世界の人々を驚嘆させる気高い精神を持っていました。長い歴史の中で先人が営々と積み重ねてきた世界一の精神文明の国が日本でした。自分だけの幸せを追及するのが日本人じゃなかったはずですが、わずか100年、それが今や...

ある方は、今の日本を有史以来の第4の国難と言っています。今こそ、私たちに眠る日本人の心を改めて感じ、この国難を乗り越える時なのではないでしょうか？

今、僕たちが生きている日本は、先人たちが命を懸けてつくってきたくれた国で、それを僕たちが食いつぶして次の世代に送っていいのでしょうか。何も知らず無邪気に笑って遊ぶ、小さな子どもたちが大人になった時、将来を夢見られない社会、尊敬すべき人を尊敬できない社会、そんな社会を僕たちがつくってしまう。絶対にそうするわけにはいきません。

大人が正しい生き方を示していないからこんな社会になった。未来の子どもたちのために、何より我々大人が真っ直ぐ生きることを行動で示すこと。

この素晴らしい国を、未来の子どもたちへきちんとした形で渡すことが、私たちの責任であり、使命だと感じています。

凛と生きる真の日本人の生き様を後の世代へ伝えるべく、このイベントを主催させていただきました。このイベントに関わってください。あなたが、日本人としての生き方、日本人としての誇りを取り戻すきっかけになっていたただけなら幸いです。

『最後の約束』 来丸貴志

9年前の5月、冷たい雨の降る日でした。大切な人と約束をしました。僕は今、この約束を胸に生きています。

「いつてらっしゃい、気づけてなあ」。夕方、出かける妻を一歳の息子と一緒に見送りしました。妻は愛おしそうに息子の顔を見つめ、ほっぺをちよんとさわり、笑顔で出かけていきました。

息子をあやししながら、妻の帰りを待つ、とっても幸せな時間。寝かしつけようとした時、電話が鳴りました。急いで病院へ行くと、そこには蘇生を諦めた医者と、冷たくなってもう動くことのない妻がいました。

「なんで？」何が起きたのか、まったくわかりませんでした。子どもが大きくなるのをあんなに楽しみにしてたのに、もう見られへんやん。ママって呼んでもらえるの、ずっと待ってたやん。行ってきますって出かけたから、ただいまあって帰ってくるのが当たり前だと思ってた。

葬儀の準備のために、家に向かいました。真っ暗な玄関を開けた瞬間、現実が押し寄せてきました。

いつも妻と子どもが笑顔で「おかえり！」って迎えてくれていたこと。それにどれだけ元気をもらっていたのか。どれだけ与えてもらっていたのか。無くなって初めて気づきました。

家事や育児、やってくれたことに対しては「ありがとう」って伝えていたのに、でも、生きてそこにいる、そんな当たり前

なことこそがありがとうだったんだ。今頃気づいても遅いだろう！愕然として、玄関から一歩も中へは入れませんでした。

もう、遅いけど、せめて最後に言えなかったありがとうをたくさん伝えたい。僕は3日間、妻の棺と一緒にいました。でも、ありがとうを伝えるつもりが、僕の口から出てくるのは、「ごめん」...。してあげられなかったことへの後悔でした。

「ごめんな、楽しみにしていたディズニーランド、もっと早く連れて行ってあげればよかったな、美容院へ行くのもずっと後回しだったな」何でやってあげなかったんだらう...、自分の都合ばかり優先してたんだ。僕はそれに気づいて、滅茶苦茶後悔しました。

結局、人に与えない生き方、感謝しない生き方、そんな生き方は後悔しかかったんだ。妻が自分の命と引換にそれを僕に教えてくれました。

だから僕は生きる。当たり前前に感謝し、人に与える人生を生きて！もう、後悔したくないから。そして、伝えていきます。ありがとうを伝える人がそばにいるのは幸せなんだ。与える人が今いるのって幸せなんだ。誰にも後悔してほしくないから。命があるのなら与える人生を生きてほしい。

妻の棺と向き合った最後の夜、僕は約束をしました。これからは自分のためではなく、人のために生きてって。

またいつか、再会した時に胸を張って報告できるように、僕はこの約束を胸に刻んで、今を生きています。

ある日、知らない人から手紙が届いた。知的障害をもつ人たちの施設の施設長さんからだった。施設の人たちを連れて行くので「死ぬことはこわくない」という話をしてほしいと書いてある。

滋賀県にあるその施設、あざみ寮におられる方々の平均年齢は5歳。知的年齢は3歳から6歳だという。周囲で亡くなる人が増えて、みんな、死ぬことをとてもこわがっている。だから死ぬことはこわくないという話をしてほしい。

驚きはしたが、引き受けることにした。私は、お釈迦さまの死について語ることで、「死ぬことはこわくない」というテーマに挑戦してみようと思ったのである。

お釈迦さまとお母さん

お釈迦さまは今からおよそ2500年前のインドの人。小さな国の王子として生まれたが、29歳で出家。そして6年間の修行ののち、35歳で悟りを開いた。その後はインドの各地をめぐる法を説き、80歳で亡くなった。

お釈迦さまのお母さん（摩耶夫人＝まやぶにん）は、お釈迦さまを生んですぐに亡くなった。だからお釈迦さまはお母さんの顔を知らない。

お釈迦さまは小さい頃から感受性が強く、考え込むことが多かった。教典には、生老病死の問題を考えたとある。なぜ、人は老い、病気になり、そして死んでいくのか。なぜ、人生は苦しみに満ちているのか。私を生んでお母さんは死んだ。お釈迦さまはそんなことを考えていたのかもしれない。

時が流れ、お釈迦さまにも亡くなる時がきた。涅槃図（ねはんず）という大きな絵がある。中央の台の上で横たわっているのがお釈迦さま。周囲でたくさんの人々が悲しんでいる。動物たちも集まっている。上方を見ると、雲に乗ってやってくる女性がいる。これがお釈迦さまのお母さんである。

お釈迦さまのお母さんは、亡くなったのちは天の

世界にいたが、お釈迦さまが亡くなるのを知って、地上に降りてくる。涅槃図はその情景が描かれているのである。

涅槃図を見るたび、私はいつも思っていた。お釈迦さまは、亡くなる直前に、お母さんのことを考えたのだろう。自分を産んですぐに死んでしまったお母さん。顔も知らないお母さん。80歳のお釈迦さまからすれば、もしかしたら孫くらいの年齢かもしれない若いお母さん（死んだ人は年を取らない）のことを、臨終の際（きわ）に、お釈迦さまは考えたのだろう。そのことが象徴的に表現されているのだ。

しかし、考えが変わった。私の父は、亡くなる前に母（私の祖母）の姿を見た。父はとても嬉しそうだった。そのころ父の病状は一進一退で、父の言葉に、病院に詰めていた私たちはぎょっとして顔を見交わした。

「お迎えに来る」という言葉がある。「おばあちゃんはお父さんのことが大好きだったから、頑張れって言いに来たんですよ」。とっさに私は言ったが、心の中では、私ばかりではなく、母も姉も兄も、全員が違うことを考えていたはずである。

半月後の夜明けに父は亡くなった。涙を流しながら私は思った。おばあちゃんはやっぱりお迎えに来たのだ。そしてお釈迦さまのお母さんも、本当にお釈迦さまを迎えに来たのだ。

父が亡くなった時から、私は確信している。私が死ぬ時、父は必ず私を迎えに来てくれる。私はそれを確信できるまでに、父から愛されていた…。

父の死を契機にして、私は次のように思い始めた。死ぬとは、先に亡くなった一番大切な人にまた会えること。大事なものは、その時まで行き切ること。久しぶりに会うのだから、いろんな話をしなげないといけな。暗い話はだめ。喜ばれない。素敵なみやげ話をたくさん持っていくために、その時まで精一杯生き切るのだ。

心の中で生きる

あざみ寮の人たちに話しかかったのは、そのことだった。「先に死んだ大好きな人にまた会える。その時まで生き切る」。私に言えるのはそれしかない。

私は小道具を用意していた。ハートの形をしたピンク色の風船である。その風船には釣竿につけるテグス糸を結んであった。「死ぬと、こんなふうになります」と言って、風船を放す。風船は一気に上へのぼっていく。でも建物のなかだから、天井にぶつかって留まる。天井の風船を指差しながら私は言った。「ほら、そこにいるじゃないですか」。「そして、思い出すと……」と言いながら、テグスを巻くと、風船はゆっくりおりてきて、初めの位置、私の胸の前に戻った。

思い出せば、死んだ人は目を覚ます。思い出す時、死んだ人は心の中で蘇る。心の中で生きているのだから、完全に死んだことにはならない。死んだ人は、その人のことを思い出す人が誰もいなくなった時、二度目の、そして本当の死を迎えるのである。

一ヶ月が過ぎ、感想文が届いた。心にしみる美しい感想文だった。

おしゃかさまはいつもかんがへておられました。みんながしあわせになれるようにたのしくらせるようにと。わたしがしんだら、いちばんだいすきなおかあさんがきてくださいますね。しぬのはまだまだこわいけど、おかあさんにあへるんがたのしみです。

===== 坂本龍馬や松下幸之助のように、いまだに強い存在価値で私たちの中に生き続けている人もいます。私たちの“今”の生き方が問われます。

☆アンソニー・ロビンズ名言集 より☆

想像力を働かせよ
想像力は意志の
10倍以上の力がある

テニスプレーヤーとして一時代を築いたアンドレ・アガシは、トニー（アンソニー）に語った。自分は10歳の頃から、ウィンブルドン選手権（全英オープン）で1000回勝ち続けるイメージを自分の中に作っていたと。

結果的に彼は、1992年の夏、22歳でウィンブルドンの頂点に立った。意志の力だけで、苦しいトレーニングを続けるのは難しい。しかし、最終的なゴールをイメージしていれば、そこに到達した時の最高の感情がわいてくる。困難なトレーニングでさえも、喜びに変えてしまう。そのような「想像力」が大切なのだ。

多くの人、意志の力だけで行動を継続しようとする。だから、辛くなってやめてしまう。禁煙が続かないのと一緒だ。

大切なのはタバコをやめた時にもたらされる報酬を、リアルに想像することだ。行動の先にある報酬が大きければ、現在の辛さもきっと越えられる。

ゴールに到達した時、あなたはどんな表情をし、どのように喜びをかみしめるのか。周りの仲間や家族は、どんな賞賛の言葉をかけてくれるだろうか。

より具体的に明確なイメージを想像する。それを維持し続けるだけでいい。そのイメージが、自動的にあなたの人生を、より高い次元へと引き上げていく。

☆世界的な指導者たちのメンター・世界No1.コーチ、アンソニー・ロビンズ、ついに4月に初来日！あなたの人生が確実に変わる3日間に！

【無常】

表面にご紹介した「いとう眼科」のエムさんこと、伊藤 勝さんのことについてです。

伊藤さんの本年1月2日のブログ、『無常』というタイトルのなかで、こんなショッキングなメッセージがありました。

「僕は間もなく左目の光を失います。」

年末12月30日に異変を感じ診察を受けると、『網膜剥離』の診断。新年早々に大学病院で手術を受け、現在安静療養中。未だ視力は回復せず、ひどくゆがんで見えるそうです。

驚くべきは、伊藤さんが、自分に起きたことを「無常」として受け入れて、ひとつも嘆くことなく平然としていること。この出来事で有難い気づきをいただいたと、次のようにコメントしています。

無常

「明日の命は誰も保障はしてくれない。目に限らず、身体はどこかに不自由などが突然起きることは誰にでもあること。だからこそ、目の前の「今を精一杯生きること」。大切なことは、『無常』を知り、目的に向かうこと。世の中に起きる無常の数々は、ひょっとしたら、そういうことを教えんがための出来事なのかもですね。この体はいただいたもの。もっと言えば、借りたもの。だとしたら、その意図に向かい精一杯生きるのみです。」

昨年、あのサムライドリプラのDVDを観て、いかに自分に本気さが足りないか、つくづく実感しました。そして、新年明けて、エムさんのこのブログのメッセージ。

すべては「因果」で繋がっている。だからこそ、「今どんな種を蒔くか」。命とは「与えられた時間」。決して無駄遣いしないように、「目の前のことに全力で、精一杯向き合うこと」。2014年年頭、あらためて心に刻んでスタートしました。エムさんの左目のできる限りの回復を祈念いたします。

【超オススメ！夢のコラボです！】昨年、中村文昭さんの講演会を開催した、伊勢原の大学生中心の若者たち、「EARTH プロジェクト」のイベント第二弾！

◎てんつくマン×ひすいこたろう スペシャルコラボ講演！

2014年3月8日（土）神奈川県伊勢原市民文化会館 大ホール ☆1000人集める！
12:00～開場 13:00～ひすいこたろう講演 15:15～てんつくマン講演
17:30～トークセッション 18:00～サイン会予定
☆料金 大人2500縁（当日2999縁） 大学生以下1500縁（当日1999縁）

☆NPO法人 MAKE THE HEAVEN 理事長 クラブ・サンクチュアリ代表取締役 天国を作る男、てんつくマン！元吉本興業のお笑い芸人で月亭方正（元 山崎邦正）の元相方。その後、映画監督、路上詩人、植林、カンボジア支援、等々。
☆大人気ベストセラー作家天才コピーライター、漢字セラピスト ひすいこたろう！もともと赤面症でダメダメな営業マン。ピーンチからチャンスを生み出し、気付けばベストセラー作家に！ ※自分が現在のように動くようになったきっかけは、てんつくマンとの出会いでした。そして、ひすいさんは何度もご紹介してきた同郷新潟の星！「てんつくマン×ひすいこたろう 伊勢原」で検索！山本宛て申込も可！